

北海道の開拓地は泥炭地や火山灰地も多く、春の融雪期には道路は「ドロドロ」状態、交通が極めて困難となり、それが開拓の障害ともなっていました。そこで内務省北海道庁(国)は道東・道北を中心に、レールでの輸送機関「殖民軌道」を計画します。まず1924(大正13)年に厚床~中標津が開通、その後次々と敷設されました。

殖民軌道はレール幅が762mmと国鉄などの1067mmに比べ狭く、また動力は馬匹とする簡易なものでした。運行組合が設置され、入植者は料金を払い利用しました。また輸送量が大きい路線ではガソリン機関車も導入されるようになります(北海道庁直営)。殖民軌道は国鉄線の駅を起点に、より内陸の開拓地へ路線は伸びていきます。

戦後の内務省解体によって農林省所管となり、「簡易軌道」と呼ばれるようになります(一部で戦中から)、1950年代に入ると輸送量が大きく、道路への代替も難しい路線では馬力から内燃動力へ改良が行われます。その新設・改良は国(農林省・北海道開発局)、維持・補修は国庫負担により北海道が、そして実際の管理運営は地元自治体(市町村)に委託され、「〇〇町・村営軌道」とも呼ばれるようになります。釧路・根室地域では、鶴居、標茶(新設)、浜中、別海の各町・村営軌道がありました。

簡易軌道は、地方鉄道法(現 鉄道事業法)や軌道法による「鉄道」「軌道」ではありません。レールと車輪による交通機関という面では確かに鉄道あるいは軌道ですが、運輸省ではなく農林省、北海道開発局が所管していたことからわかるように、法令的には「似て非なるもの」、土地改良法に準じて管理された「土地改良」のための施設です。簡易軌道特有の取り扱いや用語もあります。ディーゼルカーが「自走客車」とも呼ばれることもその1つです。

人々だけでなく農作物、そして年々生産が増加していた牛乳の輸送などに重要な役割を果たしましたが、年々整備されていく道路に役目を譲り、1972(昭和47)年の簡易軌道茶内線・若松線(浜中町営軌道)の廃止によって道内から全て姿を消しました。

釧路市立博物館ではOB・OG・関係者、関係自治体、国機関、そして当時を記録した鉄道愛好家の多大なるご協力を得て、1960(昭和35)年以降に存在した釧路地方の簡易軌道を中心に、その果たした役割を振り返る企画展「釧路・根室の簡易軌道」を2016年に開催、記録集として本書を刊行しました。そして2017年度には、NHK釧路放送局と共催で企画展「映像でよみがえる簡易軌道と道東開拓のあゆみ」を開催しました。

そして2018(平成30)年11月1日には、鶴居村の主導により「北海道の簡易軌道~次世代に伝える開拓遺産としての鉄道~」として、簡易軌道は北海道遺産にも選定されました。この過程で新たな研究成果、また写真・資料・証言が得られ、また初版の完売後も再刊に対し多くのご要望をいただいたことから、同年、増補改訂版を刊行しましたが、さらに新たな情報を盛り込んだ「2026増補改訂版」を刊行します。

この小さな鉄路「簡易軌道」を通して、釧路地方の発展や先人の労苦をふりかえる際の一助となれば幸いです。
釧路市立博物館・編著者

目次

はじめに	1	「西円朱別・菅井 弘さんの日記から」	116
カラー写真でよみがえる簡易軌道	2	「牛乳列車~浜中町営軌道のこと~」	117
簡易軌道のきつぱたち	16	別海村営軌道(簡易軌道風連線)	118
簡易軌道とは	18	軌道があったころ	沢田 正さん
鶴居村営軌道(簡易軌道雪裡線)	28		堀込哲夫さん・加藤エミ子さん
軌道があったころ	小野正彦さん		大鷹正雄さん
	41		128
	井上志津子さん		129
	44		吉田利治さん
	関口忠昭さん		123
	45		「簡易軌道 最後の冬」
	浅野靖喜さん		遊佐 洋
	46		135
	松井孝作さん		136
	47		釧路・根室の馬力線
	「新富士停留所16時25分」		三宅俊彦
	53		昭和20年代頃までに廃止となった主な路線
	「父の写真アルバムから」		佐川俊一
	57		北海道内の車両メーカー
	標茶町営軌道(簡易軌道標茶線)		146
	軌道があったころ		長井 進さん
	渋谷六男さん		147
	70		田村 武さん
	蘭幡孝子さん		148
	72		「鶴居村営軌道の有蓋貨車修復について」
	「沼幌の思い出」		田沼建治
	77		148
	浜中町営軌道(簡易軌道茶内線・若松線)		論考「北海道殖民/簡易軌道」
	軌道があったころ		湯口 徹
	青田 豊さん		149
	97		「殖民軌道・簡易軌道聞き書き」
	青田富子さん		今井啓輔
	99		155
	小椋 守さん・目黒耕次さん		「沼川、塘路、厚床の馬車軌道撮影記」
	鈴木 誠さん・しず子さん		金子元博
	100		162
	鈴木名敏男さん		「乳の道」
	102		浜中町簡易軌道と地域酪農の発展
	瀬下耕治さん		佐々木正巳
	102		165
	「鉄道ファンとして訪れた簡易軌道の思い出」		「唯一無二の地域遺産をどう活かすか」
	平田邦彦		名取紀之
	114		171
			「簡易軌道実態報告書」
			174
			資料編
			178
			現在に残る簡易軌道遺産
			185

【凡例】

本書は、釧路市立博物館創立80周年記念企画展「釧路・根室の簡易軌道」(2016年度/主催 釧路市立博物館)・NHK釧路放送局開局80周年企画展「映像でよみがえる簡易軌道と道東開拓のあゆみ」(2017年度/主催 同局・当館)展示内容をもとに、その調査で得られた資料・情報、関係者・研究者による執筆などを加え制作したものである。初版刊行(2016年度)後に得られた研究成果を加え2018年度に刊行した増補改訂版をもとに、さらに2026増補改訂版として刊行する。展示構成・冊子化は巻末に示した編著者が担当した。調査・行事運営にご協力いただいた各位に、この場を借りて御礼申し上げる。

年代の表記は「西暦(元号)」を基本とした。大正~昭和前期の文献からの引用は読みやすさを考え、新字体・現代仮名遣い、一部は算用数字に改め、適宜句読点を加えた。判読不能の文字は「●」とした。また誤字・脱字は原則的に原文のまま転載とした。

【簡易軌道の路線名について】

改良(動力化)が行われた路線では、運行主体としての「〇〇町/村営軌道」と、路線名として①北海道告示での名称(昭和28年7月25日第1139号「北海道殖民軌道の路線名、区間及び運行距離」)②農林省所管土地改良財産としての名称③運行系統での名称があるが、各章のタイトル等では②を使用している。

運行主体として	①北海道告示	②土地改良財産名	③運行系統名
鶴居村営軌道	雪裡線 幌呂線	雪裡線 幌呂支線	雪裡線 幌呂線
標茶町営軌道	[1955年運行開始]	標茶線 沼幌支線	標茶線 沼幌支線
浜中町営軌道	茶内線 円朱別線	茶内線 茶内支線 若松線	西円線 東円線 若松線
別海村営軌道	[1963年運行開始]	風連線	風連線